



天保九年



あふたあ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

あふたあてうてあふたあてうてあ

あふ

一  
摺新不体てき後まてうま  
ふより指もさる指もりの輪  
縁きよ娘お年おれつち  
夏打さしんてさるらあは  
歌てさるあ大おんあ  
さくからさるあさる  
段やさかお中さる汗あ  
けさるあさるのさる  
る 舎 る 舎 る 舎 る 舎

一  
菱笠の結さるにさるうと牛の角  
結しおさるさるあさる  
大さるさるさるあさる  
おさるさるあさるあさる  
お風のさるさるあさる  
結さるさるさるあさる  
結さるさるさるあさる  
政中さるさるさるあさる  
る 舎 る 舎 る 舎 る 舎



おのこは種と詠つる  
路は昔ながら

おまゝに詠福や中ふは月

路

いとし実やしらあまのうら

枝雪

おちこち振ふよ春のゆんを

柳後

句き結わらぬとあそむ花

芥舎

厚雪お好むよとあそむ花

十水

うらうちらくととあそむ花

碓西

六

おのこは種と詠つる

雪

いとし実やしらあまのうら

雪

おちこち振ふよ春のゆんを

雪

うらうちらくととあそむ花

雪

厚雪お好むよとあそむ花

雪

句き結わらぬとあそむ花

雪

おまゝに詠福や中ふは月

雪

いとし実やしらあまのうら

雪

浦の邊に海蔵の魚半の魚  
杉子と海蔵の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚  
魚半の魚半の魚半の魚

後 舎 水 山 雪 百 舎 海

山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎  
山中崎の山崎の山崎の山崎

山 水 百 雪 海 舎 水 巧

しゆゝ接しむるはまはる  
七より浪を波りて遊ばる  
るに先して雪のふりしり  
るはかきぬしゆりてのる  
たふらふ海もまはるしゆり  
あちちの流しゆりてのる

雪  
白  
会  
後  
山  
水

まのふりしゆりてのる  
船子のまのふりしゆり  
村の雪を焚けしゆり  
まのふりしゆりてのる  
真珠のまのふりしゆり  
神のまのふりしゆり

船交  
小舟  
梅敷  
碇  
一巴  
柳度







おの人のまはしつ山崎梅 碑山  
いふは虎中のきぢつり 蒼龍  
青島よりく巨艦ふ入つて 太柳  
ちつらふあふふささくも 柳屋  
ふおとふおのぼふつる月夜 芥舎  
官女おのふらふささくも 鷺

おのまうしてささく物守屋の継 一巴  
ふてふちの可化きささくも 山  
あつらふ大佛候もささくも 柳  
事のおささく城ささくも 柳  
名はあま作て因はむつる 後  
次つと建つて 舎  
親娘おちつらふささくも 了  
山崎おのふらふささくも 巴

後山の山田舎の山  
跡の山又あす山  
山を城す人か下と上戸  
山を城す人か下と上戸  
水海より波もあは果  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと

山 巴 山 巴 山 巴 山 巴

寺中の禪の山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと  
山つとあつた山つと

山 巴 山 巴 山 巴 山 巴

西より草の葉ゆきかたの風  
 秋より〜〜〜の葉まき〜〜〜  
 下林よりゆきかたの葉まき〜〜〜  
 真の葉まきかたの葉まき〜〜〜  
 葉まきかたの葉まき〜〜〜  
 葉まきかたの葉まき〜〜〜

柳 松 舎 百 巴 山

長年友

風

